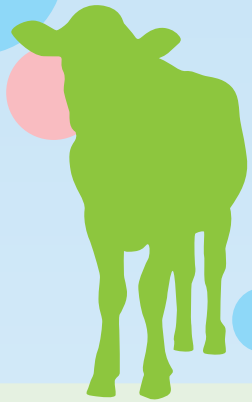


大津の牛が大健闘



11月に熊本県家畜市場で、牛の品格や能力などを競い合う共進会が開催されました。町の肉用牛（くろ牛、あか牛）と乳用牛（ホルスタイン）が出品され、大健闘しました。農家の皆さんは、消費者の皆さんへ安心・安全で美味しいお肉や牛乳を提供するために、毎日愛情を込めて牛を育てています。今後もみなさんで応援しましょう。

第11回熊本県畜産まつり共進会(肉用牛)

11月4日、熊本県家畜市場(岩坂)で開催されました。

●褐毛和種の部(あか牛)



名誉賞
首席

ほ ぼ しん じ
帆保新次さん(下町)



優秀賞

ふるしやうあきひろ
古庄昭弘さん(室)

●黒毛和種の部(くろ牛)



リザーブ
チャンピオン

(株)ストームファーム
コーポレーションCさん(杉水)



優秀賞

ほ ぼ ちく さん
(株)帆保畜産さん(町)

第11回熊本県畜産まつり共進会(乳用牛)

11月6日、熊本県家畜市場(岩坂)で開催されました。



優良賞
1席

み じ ち と ひ ろ さん
藤本広起さん(平川)



名誉賞
首席

に し ち と み づ さん
西本道靖さん(新)

農林水産大臣賞受賞

10月21日に(株)熊本畜産流通センターで、第25回熊本県肉畜共進会が開催されました。町からは(株)帆保畜産さんが出品し、見事、グランドチャンピオンとなり農林水産大臣賞を受賞しました。おめでとうございます。



(株)帆保畜産代表取締役
斎藤俊昭さん
本当に誇らしいです。これからも美味しいお肉を提供できるように頑張ります。

想

い

混乱から日常へ

～自分の持ち場を取り戻すということ～

この取材で、熊本地震が発生する以前は、「熊本では地震は起こらない」と思っていたという人が多いことを知りました。しかしあの日、突然、身の危険を感じる強い揺れが町を襲いました。多くの人が初めて経験したであろう恐怖の中で、人々はどういう想いで地震に向き合い、行動を起こしたのでしょうか。取材を通して分かった共通項は、皆さん「誰かのため」を原動力に行動していたということです。家族などの場合もありましたが、あの大混乱の中、多くの人にとっての「誰か」とは目の前の人たちでした。自分の目の前で困っている人のためにほとんどの人が行動されていたのです。年齢も立場も異なるたくさんの人たちが、地震の際に自分が居合わせ

たところを持ち場にして、自分に来る行動を起こしていました。学生であれば学校、会社員であれば会社が、自分が普段活動する持ち場です。しかし震災時の混乱の中では、その時たまたま居合わせた場がその人の持ち場となって、自分が出来る範囲で地震に立ち向かうべく行動されていました。地震直後の混乱から日常へと向かう時、それぞれの持ち場は変化していきました。一分一秒を争う地震直後の混乱を切り抜けた後、時期はそれぞれ異なっていました。ある時、ほっと一区切りつく瞬間があり、そこから日常に向かう一歩が踏み出されていくようでした。取材では、その過程が強く印象に残り、こうした過程を復興と呼ぶのだろうとも思いました。「誰かのために」を原動力に行動してきた、「百人の一步」があったからこそ、町は全体として復興へ向かっているのだと思います。普段何気なく生活している日常というのは、当たり前にあるものではなく、たくさんの人たちが日々、努力していることによって維持されているということに改めて理解した取材であったと思います。

編集後記

取材させて頂いた皆様には心から感謝申し上げます。限られた紙面の中で、皆様の言葉をうまく伝えるためにはどのようにまとめれば良いのか、議論を重ねました。震災の混乱の中、「誰かのため」に行動された6人の方の思いや行動を通して、少しでも読者の皆さんたちが当時の自分の行動や想いを振り返ることのできる機会となれば良いなと思います。一人一人の振り返りの集積が、震災の経験を過去のものとするのではなく、町が未来に向かっていくた



取材の様子